

東日本大震災から10年 女性の視点から考える復興と伝承 ～防災・減災について～

仙台市地域防災リーダー（SBL）

福住町町内会 防災・減災部長

せんだい女性防災リーダーネットワーク代表

大内幸子

私の住む福住町の概要とハザードマップ



仙台市の北東部に位置し、七北田川と梅田川に挟まれた新興住宅地。
仙台市立高砂小学校区の中の1町内会。過去に台風や豪雨の水害被害を
たびたび受けている。人口約1500人。(町内会加入世帯427)
東日本大震災時は七北田川を遡上した津波が町の近くまで瓦礫とともに遡上。
2003年に起きた宮城県北部地震をきっかけに自主防災組織を結成、
防災活動に取り組む。(夏祭りを通じて住民の参加・協力で地盤が出来る。)

台風による豪雨災害 s61.8.5

台風10号による被害状況

8月4日から5日にかけて降水量 405mm

仙台市・死者5名 床上・床下浸水 32.975戸

梅田川

福住町

S.61.8.5

福住町全戸が床上・床下浸水の被害を受ける

仙石線も水没


福住町

水深3メートル

S61.8.5

住民は小学校へ避難したが体育館も浸水 校舎の1階も浸水





多くの車が水没 2階へ取り残された住民
まだ自主防災組織は無く、避難所運営もない

S.61.8.5

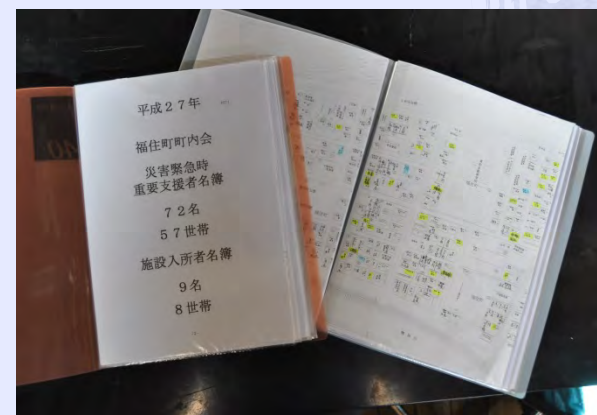
数々の災害が「福住町方式」を生み出す
原動力になっている
自分たちの町は自分たちで守る！

「日本一災害に強い町内会を目指す！」

- 要支援者の名簿作成・住民全員の名簿作成
- 高齢者宅の家具の転倒防止金具の取付
- 危険個所のマップの作成
- 備蓄倉庫の管理（防災用品・防災食）
- 仙台市内外の町内会・市民グループとの

「災害時相互協力協定」締結

※お互いに出来る範囲内での支援と交流（14団体と締結）



地図入りの名簿作成
1年ごとに更新

出来るだけ行政に頼らない地域力！
町内あげての災害対策



高齢者宅の転倒防止金具の取付

ボランティア活動や夏祭り、
イベントなどで住民の
コミュニケーションの構築



夏祭り



小学校見守りボランティア



敬老会



福住町で初めての災害支援ボランティア活動 新潟県小千谷市池ヶ原地区へ

新潟中越地震



H16年(2004年) 10月23日
死者68人・けが人4805人

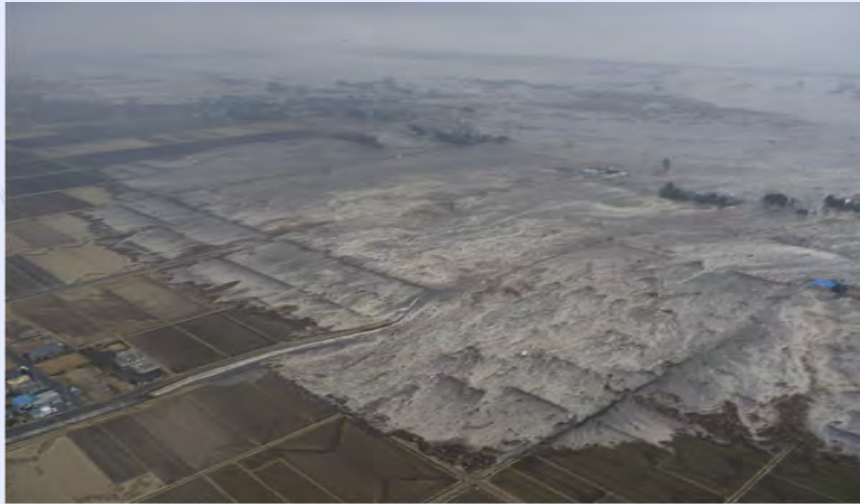


夜中の12時出発



東日本大震災

死者 15,884人
行方不明者 2,636人



宮城県仙台市荒浜地区における津波の状況（平成23年3月11日16時05分撮影）
（仙台市消防局提供）



仙台市蒲生地区



七北田川の遡上

新潟県小千谷市池ヶ原地区からも
自治会の方達がトラックで
支援物資を搬送、福住町へ！

支援 ↔ 受援

3.11の1日の動き

2時46分発災



普段の訓練通りに動けた！

- 安否確認 町内要支援者の安否確認（避難行動要支援者）
- 住民の避難誘導・呼びかけ
- 高砂小学校へ子供達の安全の確認
- 災害緊急対策本部の立ち上げ
- 避難所の開設
- 町内の被害状況の確認
- 炊き出しの準備
- 公園に手作りトイレと災害時瓦礫置場の設置



福住集会所 の様子

アルファ米でおにぎりづくり

ライフラインはすべてストップ。
お湯を沸かし、畳を敷いてストーブで暖を取る。
非常用発電機で明かりをともした。
水汲みに奔走する。
集会所はバリアフリーではないので不都合が生じる



3.11の福住集会所の当日の様子



電気・ガス・水道
ライフラインは停止

福住集会所夕方6時

3.11の指定避難所（高砂小学校）の当日の様子



18時半

- ・500人収容の避難所に2000人近くの避難者（帰宅困難者含む）
- ・仮設トイレは外にあり、和式なので足の不自由な高齢者は大変だった。
- ・更衣室も授乳室もなく女性は着替えに苦勞する。（避難所運営初期の段階）
- ・赤ちゃんを抱えたお母さんはミルクはあるがお湯が無い。
- ・支援物資（プライベートなもの）の受け取りの不具合。
- ・備蓄品は500人分（毛布・ペットボトルは行き渡らない）
- ・避難所は普段の生活そのもの
- ・この当時は避難所運営は男性主体、女性参画のマニュアルではなかった。¹⁴

全国から支援物資が続々と届く。あいがたかった。
嬉しかった。



避難所は1カ月で閉鎖



避難所での卒業式

2011.3.18

小学校の先生、避難所の方達、地域の人達での手作りの卒業式



震災で思ったこと！

災害の規模が大きければ大きいほど公助には限界！
自助・共助の取組が重要。

日常の取組と訓練が災害時に力を発揮！

災害時には女性の視点に立った防災・減災が必要

- 子供達・高齢者など災害弱者への気配いと支援
- 避難所は実生活そのもの、災害時の対応能力を持つ

東日本大震災後 自分の気持ちが大きく変わる！

過去の災害の事を伝える事は人の命を守る事に繋がる！

災害時に専門的な知識が無いと行動出来ない！

(ジェンダー・福祉・救護・防災・減災、その他沢山学びたいと思った)

仙台市地域防災リーダー（SBL）認定

女性のための防災リーダー養成講座 受講

(せんだい女性防災リーダーネットワークの立ち上げ)

総務省消防庁「災害伝承プロジェクト」語り部として、

東日本大震災の教訓と人の命の大切さ、備えなどを全国に発信！

沢山学んだ知識を地域で発揮したい！

仙台市地域防災リーダー（SBL）の活動

東日本大震災後
自主防災組織の必要性と重要性
災害の規模が大きすぎて行政も被災



地域防災力の強化

発災時

住民の安否確認
情報収集・伝達
避難誘導
初期消火
救出救護
避難所の開設・運営

平常時

地域のマップ作り
自主防災計画(アクションカード)
指定避難所運営の協議・学校との連携
地域住民に対する情報提供・啓発活動
地域防災リーダーどうしの情報交換

- ・仙台市がSBLを活動しやすいように支援
→バックアップ講習会
- ・仙台市独自の講習カリキュラム
→地域防災力診断、DIG
- ・令和3年度2月末現在 696名(うち女性177名)

地域に根差した防災活動



地域外でのSBLの活動

「仙台防災SBLラジオ」立ち上げ



防災パビリオン・ランタンづくり



市民カレッジ「SBL防災・減災
プロデュース講座」



せんだい女性防災リーダーネットワーク

「女性のための防災リーダー養成講座」終了後に修了生が立ち上げ、
青葉区・宮城野区・太白区・泉区・若林区 5区で各区での活動
町内会役員・学校支援関係者・民生委員・防災士・市職員・
SBLのメンバーからなる。

月1度各区定例会があり

月1度各区の代表者会議を開催

イベントや研修会等いろいろな切り口から楽しく防災を学ぶ
ワークショップなどを開催

女性ならではの視点とリーダーシップを活かしながら地域防災力を
高めるさまざまな活動で、地域に貢献したいとの思い！
老若男女や多様な人たちとの交流を図り、地域に根差した活動を
平成26年から始める

せんだい女性防災リーダーネットワーク青葉

せんだい女性防災リーダーネットワーク宮城野

せんだい女性防災リーダーネットワーク太白

せんだい女性防災リーダーネットワーク泉

せんだい女性防災リーダーネットワーク若林



せんだい女性防災リーダーネットワーク
の取り組み

女性防災リーダー



各区の代表者5名



国連防災世界会議

2015.3.1

7

「地域防災の取組と活動」
災害時には女性のリーダーが必要！
パブリックセッションにて
SBLとして発表

仙台防災枠組

女性や若者のリーダーシップの位置付け
より良い復興・防災の主流化
マルチステークホルダーが防災に取り組む重要性

1人1人が出来る事から。。

沢山学んだ知識を
仙台から発信する！



防災・減災に必要な地域のつながりの基盤は夏祭り！



子供みこしが町を練り歩く



5か所の休憩所には
地域の人達から差し入れが



男みこし(小学校1年のお父さん)



夏祭りの運営を担っているのは半数以上が女性たち

小学生役員



中学生役員



婦人コスモス部



婦人防火クラブ



福住町防火・防災訓練

訓練の目標

発災後の対応

- ・ 要支援者の安否確認
- ・ 消火活動
- ・ 瓦礫・車両からの救出搬送訓練
- ・ 炊き出し訓練

減災

- 東北電力・ガス局・水道局
- NTT・環境事務所・栄養士会
- ・ 住宅の耐震補強・防災用品
- ・ 災害時協力協定団体と交流

👉 「自分たちの町は自たちで守る」をモットーに
毎年訓練
15年前から消防署の指導ではなく、
福住町独自に企画と運営、
減災に力を入れている「全員参加型」を目指す防災訓練

中学校で防災訓練の打ち合わせ

小学生も一昨年
から地域に参加



小学生・中学生は授業の一環として、地域の人と一緒に力を合わせて行動し、小学生はお兄さんお姉さん達を見て学び、中学生は地域で活動をする大人を見て学びます。



福住町防火・防災訓練の企画と運営



白い旗を玄関に掲げ、訓練に参加

高齢者も参加





**福住クリニックの先生からトリアージ
震災前から福住町防災訓練に参加**



高齢者疑似体験



キッズ防火服着用体験

災害救助犬



日赤・AED訓練



サバ飯づくり



防災まち歩き(福住町の災害履歴とマップ作り)



地域保育園の防災訓練



学校での防災教育



防災食・アルファ米



地域コミュニティと学校との連携は、災害時の避難所運営にも反映。

自然災害や事故など、子供達が学校にいる時間帯より地域で発生する確率が高い。学校だけでは子供達は守れなくなってきている。

災害が起こったらどうするかではなく、災害が起きる前に準備をしておく！

**世界で起きている自然災害の約1割が
日本で起きている！
リスクは日本全国にある。**

- ・ 震災と地域の災害を次世代に伝承！
- ・ 子供達に伝える大切さ。
- ・ 次世代を担う子供達に伝承していく事が、
安心で安全な未来のまちづくりと人づくりに
繋がっていく！



**学校の備蓄倉庫の引っ越し。
1階から2階へ！**

震災の伝承としての取組

高砂小学校・震災のお話し



「災害伝承10年プロジェクト・総務省消防庁」 長崎市（全国から依頼）



オセアニア州7か国と交流・



東日本豪雨

台風19号

2019.10.12

暗くなる前の早めの避難を呼びかけ！

151世帯が床上・床下浸水



東部自動車学校



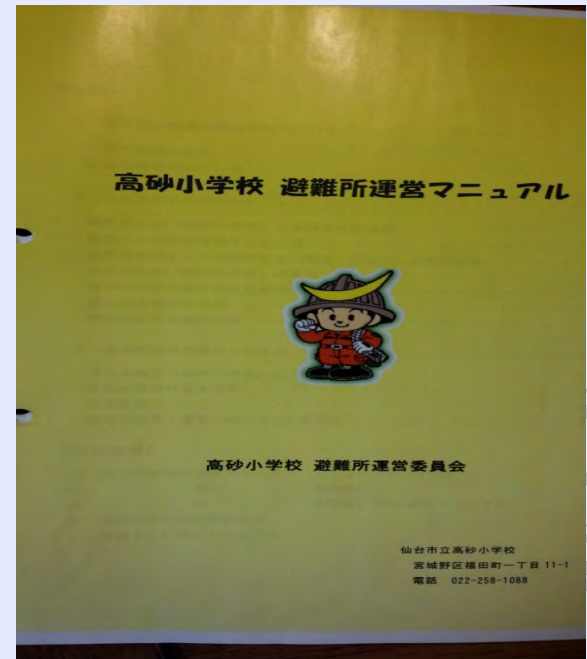
SBL大内

福住町



避難所運営

171人が避難(校舎の2・3・4階へ)



震災後、避難所運営マニュアルの変化

- ・避難所は(大雨時) 体育館から校舎の2階.3階.4階へ
- ・避難所運営委員企画員として女性の参画
- ・1階の備蓄倉庫は2階へ移動(浸水区域のため)
- ・避難所マニュアルを誰が見ても分かり易く、見やすく持ち歩きやすいように薄く。
- ・女子更衣室と授乳室を設け、中から鍵が掛かるように。
- ・ペットと家族が同行避難出来るように部屋が設けられた。
- ・簡易トイレは7:3の割合で洋式が増えた。

施設管理者の
学校と相談
教頭先生から
の提案

女性の参画の大切さ

避難所は災害弱者と言われている女性、子供、お年寄り
障害のある方が避難してくる。

女性は子育てや、子供と地域に関わることが多い。お年寄りの
介護などもしている。避難所は普段の生活そのものである。
女性は災害時の対応に必要な実生活に根差した知識や能力を持つ。
女性の参画は必要不可欠。

コロナ感染症対策 避難所の部屋割り



教頭先生・避難所運営委員長・
SBL

居住スペースは隣との間隔を
2m開けて。今までの収容の半分も入れない。
(危険状況から回避出来れば在宅避難・垂直避難・
分散避難)

新型コロナウイルス感染症対策備蓄品の追加
受付では毛布・水・ビスケットを持ち各居住ス
ペースへ。接触を避ける。

学校・避難所運営委員会・
行政と感染症対策の確認

フラダンテーションづくり、
アイソレーションガウン
フェイスシールド
非接触型体温計
備蓄倉庫の防災備品の確認



コロナ感染症対策避難所開設シュミレーション



発熱者の区別と 高齢者・障害者は
エレベーターで2階へ



避難者カード

自然の恵みをもたらす梅田川と共存していく

虫取り学習



梅田川での灯籠流し

コスモス公園でさんま祭り



仙台・福住町方式

- ・住民の名簿作成、要支援者の名簿(地図入り・1年ごとに更新)
- ・「防災わが町福住町自主管理マニュアル」に基づく
町内全員参加型の防火・防災訓練
{ 情報収集班・消防協力班・救急救護班・救護物資班・給食給水班 }
- ・日頃のご近所付き合いと見守り
{ 2日間の夏祭り・高齢者への食事会・子供を見守るボランティア・
青パトロール・灯籠流し・小学校と地域一緒の運動会 }
- ・災害時、町内会長が不在の時、防災部長が指揮を執り、
執行部全員で対応

災害時相互協力協定

尾花沢市鶴子地区



天童市田鶴町内会

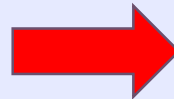


※多くの水害と地震に見舞われてきたこの経験が、
「福住町方式」を生み出す
大きな原動力となる。
現在も試行錯誤。

まとめ

- 地域の災害の歴史を 次世代に根気よく伝承していく
- 地域の災害リスクの理解と共有が安心・安全な町づくりに
- 備えや準備・取り組みをしている事は災害時のリスク削減に繋がる。
- 出来るだけ行政に頼らない地域力。
- お祭いやイベントを通じ、顔の見える関係が減災に！
- 学校の防災教育と地域防災のタイアップが、地域の発展と防災力向上につながっていく。
- 災害時は女性の視点に立った防災・減災が必要不可欠。
- 防災は日常生活そのもの。様々なイベントや活動があって防災の取組が活性化する。 → 災害リスク軽減

- ◎備える
- ◎知識を得る
- ◎訓練をする



命が助かる事
命を助ける事

地道に防災・減災の活動を進めていきたい！

いつでも どこでも災害は起きます。

コロナ禍の中で、防災・減災を進めていくには
工夫と努力と知恵が必要

自分の命を守るため、大切な家族を守るため、地道に
地域に根差した防災・減災を進めていきたい！

継続していれば、災害が起きたとき必ず役に立ちます。

ご清聴ありがとうございました。